

令和4年度 事務事業評価表 (令和3年度実績)

事務事業名		動物園リニューアル事業費			担当所属	動物園			
基本情報	分野	6 産業・観光	事業期間	平成20年度 ~ 令和14年度					
	基本施策	5 観光交流の推進	会計種別						
	推進施策	3 徳山動物園の魅力向上	実施計画	該当	総合戦略	該当			
事業概要	対象	動物園施設全般							
	意図	動物園の全面リニューアルを計画的に進め、魅力向上による来園者数の増加を図るとともに、「まちなか動物園」として中心市街地との連携を図り、交流人口の拡大や「まち」の活性化につなげる。							
	成果	リニューアルの第1弾として北園において平成28年3月に「るんちゃるんちゃ」がオープンし、平成29年10月に自然学習館「ねいちゃる」・野鳥観察所、平成30年8月にペンギンプール・ふんすい広場が順次オープンした。南園においては平成31年4月にゾウ舎、令和3年11月にアジア熱帯雨林ゾーンの一部がオープンし、動物園の魅力向上とともに事業の進捗が図られた。							
	手段	老朽化が進む動物園の全面リニューアルを計画的に行い、動物、人、環境にやさしい動物園として整備していく。							
指標	活動指標	指標名		単位	H31年度実績	R2年度実績	R3年度実績	R4年度見込	
		整備進捗率（面積ベース）		目標値	%	35.7	43.8	45.4	45.7
				実績値	%	35.7	35.7	43.8	-
				目標達成度	%	100.0	81.5	96.5	-
コスト	(単位：千円)		平成30年度決算	平成31年度決算	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度予算		
	トータルコスト		778,181	172,413	372,586	290,734	280,852		
	事業費		770,029	163,918	344,896	257,137	250,451		
	特定財源	国庫支出金	306,723	39,454	155,807	119,471	124,189		
		県支出金	0	0	0	0	0		
		地方債	363,600	75,200	123,800	100,200	98,900		
		受益者負担	0	0	0	0	0		
		その他	0	0	0	0	21		
		一般財源	99,706	49,264	65,289	37,466	27,341		
	人件費合計		8,152	8,495	27,690	33,597	30,401		
	正職員		8,152	8,495	27,690	33,597	30,401		
正職員以外		0	0	0	0	0			
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)			
人員	正職員 (人)	1.11	1.17	3.87	4.73	4.28			
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00			
周辺環境	開始時の周辺環境								
	昭和35年3月に開園した徳山動物園は、園内施設の老朽化が著しく、また、展示方法が利用者ニーズや動物園としての使命等に適合しなくなってきたことから、動物園の全面リニューアルを進める必要がある。								
	現状の周辺環境								
評価	評価項目		評価	評価の理由					
	妥当性	1. 市の関与（税金支出）	A	動物園の全面リニューアルを実施し動物園の魅力向上を図ること由来園者数の増加や中心市街地の賑わいの創出につなげる。					
		2. 事務事業の目的（対象・意図）	A						
3. 事務事業の目標（活動指標等）		A							
有効性	4. 計画の実施状況		B	令和3年度に熱帯サル舎の整備を終え、アジアの熱帯雨林ゾーン全体の供用開始を予定していたが、熱帯サル舎の周辺整備事業を翌年度に繰越したため、整備完了が令和4年度となった。					
	5. 目標（活動指標等）の達成度		B						
	6. 上位施策への貢献度		A						
	7. 事業成果の向上へのさらなる取組み		A						
効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み		A	動物園リニューアル事業は、動物園を取り巻く状況、期待される役割の変化や市の財政状況等を踏まえ、令和2年度に基本計画の見直しを行い、計画的に整備を進めていく。					
	9. 類似事業との統合・代替の検討		A						
	10. これまでの実施手段		A						
総合評価	A		動物園リニューアル事業は、令和2年度に事業の中間年として進捗等を再確認し、基本計画の見直しを行っており、事業精査をしながら計画的に整備を進めている。						
改革案	今後の実施方向性	維持	動物園リニューアル事業は、平成25年度の工事着手以降、順次整備を進めてきたが、事業開始から10年が経過した令和2年度に中間年の見直しとして基本計画を変更した。今後についても社会環境の変化等を考慮し、事業精査を行いながら進めることとしている。						
	成果方向性	成果維持							
	コスト方向性	コスト維持							
	改革効果（どのような効果が期待できるか）		・事業の効率化、最適化 ・魅力向上による集客増に伴う入園料収入の増（管理運営費における自主財源比率の向上）						

令和4年度 事務事業評価表 (令和3年度実績)

事務事業名		動物園管理運営事業費			担当所属	動物園			
基本情報	分野	6 産業・観光	事業期間	～ 永年					
	基本施策	5 観光交流の推進	会計種別						
	推進施策	3 徳山動物園の魅力向上	実施計画		総合戦略				
事業概要	対象	徳山動物園の管理運営に関する全般							
	意図	本市有数の情報発信・交流拠点として、動物園に市内外から多くの来園者を迎える体制を確保することで、その役割を果たすことができる。							
	成果	動物園を交流拠点施設として、また、社会教育施設として、管理運営することにより、交流人口の拡大や市民のレクリエーション機能の充実を図ることができる。とともに、動物を通じて、自然環境に対する見識の向上を図る。							
	手段	【事業概要】動物園を交流拠点施設として、また、社会教育施設として、管理運営を図る。【主な内容】入園者の受付、駐車場の整理、予算管理執行、開園のための勤務体制の確保、施設の維持・保守点検、事業を告知するための広告宣伝、入園料収入以外の自主財源の確保							
指標	活動指標	指標名		単位	H31年度実績	R2年度実績	R3年度実績	R4年度見込	
		徳山動物園の入園者数		人	360000	210000	300000	300000	
				実績値	人	268607	195757	208499	-
				目標達成度	%	74.6	93.2	69.5	-
コスト	(単位：千円)		平成30年度決算	平成31年度決算	令和2年度決算	令和3年度決算	令和4年度予算		
	トータルコスト		98,861	104,087	104,808	103,045	117,793		
	事業費		74,552	80,053	78,549	83,583	87,818		
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0		
		県支出金	0	0	0	0	0		
		地方債	0	0	0	0	0		
		受益者負担	51,181	51,493	24,354	16,259	50,607		
		その他	0	0	0	7,982	10,124		
		一般財源	23,371	28,560	54,195	59,342	27,087		
	人件費合計		24,309	24,034	26,259	19,462	29,975		
正職員		24,309	24,034	26,259	19,462	29,975			
正職員以外		0	0	23,984	25,262	28,298			
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(23,984)	(25,262)	(28,298)			
人員	正職員 (人)	3.31	3.31	3.67	2.74	4.22			
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	11.35	10.37	10.39			
周辺環境	開始時の周辺環境								
	徳山動物園は、旧徳山市の市制施行25周年を記念して昭和35年3月20日に開園								
	現状の周辺環境								
評価	評価項目		評価		評価の理由				
	妥当性	1. 市の関与 (税金支出)	A		市の交流拠点施設として、動物園は重要な施設であり、動物を通じた「命の学習」、「環境学習」の拠点施設であるとともに、地域の賑わいづくりに寄与している。				
		2. 事務事業の目的 (対象・意図)	A						
3. 事務事業の目標 (活動指標等)		A							
有効性	4. 計画の実施状況		B		令和3年度の入園者数は前年から微増したが、新型コロナウイルス感染拡大防止による臨時休園のため、当初の見込みを下回るものであった。				
	5. 目標 (活動指標等) の達成度		C						
	6. 上位施策への貢献度		B						
	7. 事業成果の向上へのさらなる取組み		A						
効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み		A		維持管理経費等については毎年精査しており、これ以上の削減は難しいが、可能な限り自主財源の確保 (堆肥販売等) に努める。				
	9. 類似事業との統合・代替の検討		A						
	10. これまでの実施手段		A						
総合評価	B		動物園管理運営業務については、安心安全を第一に運営を行っている。今後、リニューアル事業の進展に伴い窓口業務体制の見直しを検討していく。						
改革案	今後の実施方向性	維持	動物園は、本市における重要な交流拠点施設であるとともに、「いのちの博物館」として、種の保存、環境教育等の重要な役割を担っており、今後も、適切に管理運営をしていく必要がある。						
	成果方向性	成果維持							
	コスト方向性	コスト維持							
	改革効果 (どのような効果が期待できるか)								
リニューアル事業の進展に合わせて、動物園の魅力向上、入園者数増につなげていく。									

令和4年度 事務事業評価表 (令和3年度実績)

事務事業名		動物園教育普及事業費			担当所属	動物園			
基本情報	分野	6 産業・観光	事業期間	～ 永年					
	基本施策	5 観光交流の推進	会計種別						
	推進施策	3 徳山動物園の魅力向上	実施計画		総合戦略				
事業概要	対象	徳山動物園に来園された方、また、徳山動物園の情報を受け取った方							
	意図	動物園に来園された方などに、動物の情報や動物をとりまく生息地環境について興味を持っていただき、環境に配慮した豊かで文化的な市民生活の実現に資するもの							
	成果	新型コロナウイルス感染拡大防止の為、8月31日から9月26日まで、及び1月14日から2月20日までの長期の休園となり、また、自粛生活の影響などから、教育イベントへの参加者は、コロナ前の5割程度となった。							
	手段	教育イベントやプログラム、コンクールの実施、講演会の開催、各種解説の表示などで、入園者が動物の環境などについて考える機会を提供する。							
指標	活動指標	指標名		単位	H31年度実績	R2年度実績	R3年度実績	R4年度見込	
		教育イベントの延べ参加者数等		目標値	人	15000	15000	15000	15000
				実績値	人	12557	8354	7484	-
				目標達成度	%	83.7	55.7	49.9	-
コスト	(単位：千円)		平成30年度 決算	平成31年度 決算	令和2年度 決算	令和3年度 決算	令和4年度 予算		
	トータルコスト		22,563	21,653	7,661	16,915	11,570		
	事業費		825	887	506	862	844		
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0		
		県支出金	0	0	0	0	0		
		地方債	0	0	0	0	0		
		受益者負担	825	887	506	862	844		
		その他	0	0	0	0	0		
		一般財源	0	0	0	0	0		
	人件費合計		21,738	20,766	7,155	16,053	10,726		
正職員		21,738	20,766	7,155	16,053	10,726			
正職員以外		0	616	328	0	0			
(事業費集計済分)		(0)	(616)	(328)	(0)	(0)			
人員	正職員 (人)	2.96	2.86	1.00	2.26	1.51			
	正職員以外 (人)	0.00	0.30	0.10	0.00	0.00			
周辺環境	開始時の周辺環境								
	昭和35年の開園時から動物画コンクールを県下3園館で実施								
	現状の周辺環境								
評価	動物画コンクールなどに加え、学校との連携の中での総合学習や職場体験など、体験型の学びも求められている。また環境学習に関する取組の重要性が増している。								
	今後の予想される周辺環境								
	今後は、「環境意識」や「命の尊さ」に気付く機会となる体験型・参加型のプログラム、またリモートで利用できるプログラムが求められていく。								
評価	評価項目		評価		評価の理由				
	妥当性	1. 市の関与（税金支出）	A		市営の動物園として、動物を通じた環境学習や、命の学びを提供していくことは重要な使命である。				
		2. 事務事業の目的（対象・意図）	A						
		3. 事務事業の目標（活動指標等）	A						
	有効性	4. 計画の実施状況	C		新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う長期の休園や、社会的な自粛生活の影響で、令和2年度と同様に実施できなかったプログラムも多く、参加者数が前年比約1割の減少となった。				
		5. 目標（活動指標等）の達成度	C						
		6. 上位施策への貢献度	C						
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み	B						
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み	A		環境学習と命の学習について、引き続き取り組んでいく。				
		9. 類似事業との統合・代替の検討	A						
10. これまでの実施手段		A							
総合評価	B	動物園は、「いのちの博物館」であり、動物を通して、「自然環境」や「いのち」について学ぶ場であることが大切であるが、コロナ禍の影響を強く受け、十分な事業展開ができなかった。							
改革案	今後の実施方向性	維持	動物園は、「いのちの博物館」という使命をもって、今後も教育普及活動に取り組んでいく。						
	成果方向性	成果維持							
	コスト方向性	コスト維持							
	改革効果（どのような効果が期待できるか）								
アフターコロナの社会変化に応じたプログラムの形態や情報提供の手法について、広く検討が必要である。また、職場体験や学校への小動物貸し出し等のニーズの高い取り組みは、ITを利用しながら進めていく。									

令和4年度 事務事業評価表 (令和3年度実績)

事務事業名		動物園飼育事業費			担当所属	動物園			
基本情報	分野	6 産業・観光	事業期間	～ 永年					
	基本施策	5 観光交流の推進	会計種別						
	推進施策	3 徳山動物園の魅力向上	実施計画	総合戦略					
事業概要	対象	徳山動物園の飼育動物							
	意図	展示動物を適切に飼育管理し、また繁殖、調達することで、種の保存に取り組み、継続的な動物園業務の実現を図るもの。							
	成果	令和4年3月末現在で、113種577点の動物を飼育展示しており、入園者が観察することができている。そのうち7種16点の繁殖実績となった。							
	手段	動物福祉に配慮した適正な飼育環境を維持し、必要な飼料を準備する。必要な検査、診療を行い、飼育技術の向上のための情報を収集し研究する。							
指標	活動指標	指標名		単位	H31年度実績	R2年度実績	R3年度実績	R4年度見込	
		繁殖推進種繁殖率		目標値	%	30	30	30	30
				実績値	%	45	33	36	-
				目標達成度	%	150.0	110.0	120.0	-
コスト	(単位：千円)		平成30年度 決算	平成31年度 決算	令和2年度 決算	令和3年度 決算	令和4年度 予算		
	トータルコスト		110,915	110,992	112,447	103,007	123,449		
	事業費		31,453	31,048	29,377	31,409	32,104		
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0		
		県支出金	0	0	0	0	0		
		地方債	0	0	0	0	0		
		受益者負担	31,453	31,048	29,054	30,555	31,774		
		その他	0	0	323	854	330		
		一般財源	0	0	0	0	0		
	人件費合計		79,462	79,944	83,070	71,598	91,345		
正職員		79,462	79,944	83,070	71,598	91,345			
正職員以外		0	4,041	10,769	4,661	4,987			
(事業費集計済分)		(0)	(4,041)	(10,769)	(4,661)	(4,987)			
人員	正職員 (人)	10.82	11.01	11.61	10.08	12.86			
	正職員以外 (人)	0.00	1.60	3.90	1.60	1.60			
周辺環境	開始時の周辺環境 昭和35年3月に80種350点の展示動物で徳山動物園が開園した。								
	現状の周辺環境 動物園開園後、昭和46年には192種837点の展示動物を飼育、昭和58年には903点と展示動物が増加したが、その後減少し、令和4年3月末現在、113種577点の展示動物を飼育している。								
	今後の予想される周辺環境 野生動物保護の観点から、動物の輸入は年々困難になっている。動物の購入・導入については、フリーディングローンの適切な運用などで、機会を捉えた動物の確保を進めていく必要がある。								
評価	妥当性	評価項目		評価	評価の理由				
		1. 市の関与（税金支出）		A	継続的な動物園業務の実現を図るため、また、動物園の大きな役割の一つである「種の保存」という観点からも、展示動物の適切な飼育管理は必要である。				
		2. 事務事業の目的（対象・意図）		A					
	3. 事務事業の目標（活動指標等）		A						
	有効性	4. 計画の実施状況		A	リニューアル後の飼育計画種などを中心に、繁殖を推進し、動物の補充を進めている。				
		5. 目標（活動指標等）の達成度		A					
		6. 上位施策への貢献度		A					
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み		A					
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み		A	動物園の飼育動物は、野生から調達するものだけではなく、動物園内で繁殖させ確保する必要性が高まってきている。				
		9. 類似事業との統合・代替の検討		A					
10. これまでの実施手段		A							
総合評価	A		動物園の重要な役割である「種の保存」を実践できるように適正な飼育管理を行っていかねばならない。動物たちの元気な姿を多くの市民にご覧いただき、学びと楽しさのある動物園として引き続き役割を果たしていく。						
改革案	今後の実施方向性	維持	動物園の大事な役割の一つである「種の保存」を実現していくため、今後も適切な飼育を行い、繁殖を促していくことが重要である。						
	成果方向性	成果維持							
	コスト方向性	コスト維持							
	改革効果（どのような効果が期待できるか）								

令和4年度 事務事業評価表 (令和3年度実績)

事務事業名		動物園魅力向上推進事業費			担当所属	動物園			
基本情報	分野	6 産業・観光	事業期間	平成17年度 ~ 永年					
	基本施策	5 観光交流の推進	会計種別						
	推進施策	3 徳山動物園の魅力向上	実施計画	総合戦略					
事業概要	対象	徳山動物園に来園された方、また、徳山動物園の情報を受け取った方							
	意図	常に動物園から情報を発信し身近な存在として感じていただくことで、動物園の魅力を向上させるもの。ボランティアの力を活用して先進的な取り組みや質の高いサービスを提供しようとするもの。							
	成果	多くの入園者の集客につながる効果的な情報を発信し、また、園内では、ふれあい体験などを通じて、観る動物園から、体験する動物園としての魅力向上に寄与している。							
	手段	動物園に関する情報を発信し、多くの人々に楽しく興味深い企画を開発し提供する。ボランティアの育成を通じ、より魅力ある動物園とする。							
指標	活動指標	指標名		単位	H31年度実績	R2年度実績	R3年度実績	R4年度見込	
		各体験などの利用者数		目標値	人	250000	250000	150000	150000
				実績値	人	225839	77292	72786	-
				目標達成度	%	90.3	30.9	48.5	-
コスト	(単位：千円)		平成30年度 決算	平成31年度 決算	令和2年度 決算	令和3年度 決算	令和4年度 予算		
	トータルコスト		46,824	44,170	63,844	61,959	53,781		
	事業費		14,217	14,400	16,263	19,057	21,249		
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0		
		県支出金	0	0	1,146	1,213	1,146		
		地方債	0	0	0	0	0		
		受益者負担	14,217	14,400	14,735	15,744	11,931		
		その他	0	0	382	2,100	8,172		
		一般財源	0	0	0	0	0		
	人件費合計		32,607	29,770	47,581	42,902	32,532		
正職員		32,607	29,770	47,581	42,902	32,532			
正職員以外		0	9,133	6,749	14,919	16,750			
(事業費集計済分)		(0)	(9,133)	(6,749)	(14,919)	(16,750)			
人員	正職員 (人)	4.44	4.10	6.65	6.04	4.58			
	正職員以外 (人)	0.00	3.85	2.40	5.13	5.07			
周辺環境	開始時の周辺環境								
	「見るだけ」の動物園から「ふれあう、体験する」という新しい形の動物園運営につなげるために、体験をベースにした事業を展開している。								
	現状の周辺環境								
評価	評価項目		評価	評価の理由					
	妥当性	1. 市の関与（税金支出）	A	周南市の主要な交流拠点として、動物園の魅力向上を図ることは必要である。					
		2. 事務事業の目的（対象・意図）	A						
3. 事務事業の目標（活動指標等）		A							
有効性	4. 計画の実施状況	A	コロナ禍の影響で、事業の内容の変更や、イベントなどを中止することになった。外出自粛の影響もあったが、三蜜を避けたイベントの取り組みやSNSなどで動物園のリアルタイムの情報を周知した。						
	5. 目標（活動指標等）の達成度	C							
	6. 上位施策への貢献度	C							
	7. 事業成果の向上へのさらなる取り組み	B							
効率性	8. コスト削減へのさらなる取り組み	A	ボランティアの育成などを進め、市民の力を活用しながら、本市の主要な観光施設として魅力向上を進める。						
	9. 類似事業との統合・代替の検討	A							
	10. これまでの実施手段	B							
総合評価	B		「見る動物園」から「ふれあう、体験する動物園」というニーズに応えながら、「環境」や「命」を学べる魅力的な取り組みを継続する。また、市内の観光情報などをあわせて発信し、回遊性を高める取り組みが必要である。						
改革案	今後の実施方向性	維持	「ふれあう、体験する」というニーズに応える魅力的な事業を行いながら、来園者の増加につなげる。また、来園者による地域への周遊性を高めるよう、近隣の施設や中心市街地などとの連携の在り方について検討する。						
	成果方向性	成果維持							
	コスト方向性	コスト維持							
	改革効果（どのような効果が期待できるか）								
動物園の来園者による地域経済への波及効果の向上、また、地域資源との連携による相乗的な動物園の魅力向上									